

平成28年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
 (Ⅱ 定住外国人の子供の就学促進事業)
 事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村・協議会名【愛知県豊川市】
平成28年度に実施した取組の内容及び成果と課題
1. 事業の実施体制 不就学の外国人の子供に対する日本語・教科指導、学習習慣の確保に係る指導のための教室の開設 教室名:豊川市こぎつね教室(平成24年11月に常設の教室として設置)。 場 所:豊川市諏訪3-133 豊川市プリオビル 5F 開室期間:土、日及び年末年始を除く、月曜日から金曜日 職 員:コーディネーター兼指導員1名 日本語指導員2名 送迎運転手兼指導補助1名(送迎のない時間は指導補助。) ボランティア:約6名(1日1名～2名) 対 象:外国にルーツのある小中学校相当の子供・小学校入学まで6箇月以内の子供に対して日本語指導及び教科指導を実施。 在籍者数:51名(今年度入室42名、昨年度からの継続9名)
2. 具体的取組内容 通常授業:教室には常時15名～20名程の児童・生徒が在籍。基本的には小学生と中学生のグループに分け、それぞれのグループで1名の指導員が授業を行う。無償ボランティアが指導補助に入る場合に、必要に応じて個別指導も行っている。授業内容としては、小学生らは初期の日本語指導が主であり、平仮名・カタカナの読み書き、日常で使用する語彙集を指導計画に沿って進めている。中学生らは、それより発展し、日本語文法の理解や運用、日常会話の習得に力を入れている。 地域社会との交流としては、地元農家の協力を得て、6月のさつまいも苗植えから、8月の草取り、10月下旬の収穫、焼きいも体験等を行った。長期にわたって貴重な体験となった。 12月には、保護者や関係者を呼び、成果発表会、お楽しみ会を通して、地域とのつながりと教室の周知を図った。 その他には、アダプトプログラムとして、定期的に近くの豊川公園のゴミ拾いなどの清掃活動を行った。4月のお花見、7月の七夕、2月の節分等、日本の行事に関する活動を行った。

3. 成果と課題

成果として、今年度在籍者数51名(昨年度からの継続は9名)のうち、教室入室時に不就学であった児童生徒を全州市内の小中学校に入学させることができた(平成29年4月入学予定の児童生徒も含む)。

入学した児童・生徒らは、その後も継続して午後からは教室で学ばせ、学校生活で適応ができるようになるまで指導を行った。入学後の学校生活の不安や悩み等も児童生徒から聞き取るようにし、日本語指導だけでなく、気持ちの面でもフォローできるよう配慮した。その間、必要に応じて学校や教育委員会とも頻繁に連絡を取り合った。結果、教室卒室後、保護者の都合での市外への転校等を除いて、児童生徒らは各学校で適応し、通学を続けている。

学習成果では、入室時に日本語が全くわからない、知らないというゼロレベルだった児童生徒は在籍者51名中29名。そのうち中学生が7名、小学生が20名、プレスクールが2名であった。その児童生徒らも個人差はもちろんあるものの、平仮名・片仮名の読み書きから漢字、簡単な日常会話と学習を進めていくことができた。嫌になり途中退室という児童は一人もおらず、約6箇月の学習期間で卒室する児童らがほとんどであった。

また、日本語ゼロレベルの児童生徒が増加しており、特にブラジルの児童生徒が増加(全体の7割以上を占める)していることから、近隣のブラジル人学校へ視察した際に教えていただいたポルトガル語訳のついた教材を試験的に活用し始めたところ、理解度が数段よくなる成果を得た。今後もさらに教材を工夫するなどし、より効果的で効率の良い指導ができるよう努めていきたい。

今年度顕著だったのが、前述に触れたとおり、ブラジルから新しく入国してくる子供が増加しているということである。また、ブラジル人の定住化志向が強まっていることもあり、近隣のブラジル人学校を辞め、日本の学校に入りたいと希望する生徒も増えている。課題としては、上記の児童生徒は、日本語が全く話せない又はほとんど話すことができないゼロレベルの子ばかりであり、今後益々増加していくものと予想され、より一層、教育委員会や学校、保護者との連絡を密にし、児童生徒の状況を細かく情報交換するとともに、教材研究を進めて、より効果的で効率の良い教室運営を行う必要性が高まっているということである。

4. その他(今後の取組等)

前述の課題に対し、昨年度から引き続き毎月、教育委員会で行われる市内小中学校の外国人指導助手担当者会議や教育委員会主催の会議に出席している。それにより、担当者らに教室についてさらに深く理解してもらうとともに、卒室児童生徒の情報もより詳しく分かるようになった。また、今年度から入室後2～3週間ほど経った児童生徒の保護者と面談をし、教室での児童生徒の学習の様子を伝えるとともに、家庭や学校での子供の様子を聞き取るなどしている。それにより、児童生徒の家庭環境や性格等を把握し、より一層きめ細かな指導に結びつけるとともに、保護者も巻き込んだ教室運営となるよう努めている。

今後行う予定の取組みとしては、学校を訪問した際、外国人児童生徒の多くが計算が苦手であるという先生の声をよく耳にすることから、休み時間10分のうちの5分を活用し、レベルにあった計算問題に取り組む「さんすうの時間」を実施し、少しでも早く学校生活に順応できるよう手助けをしていきたいと考えている。

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない。)